

普及活動情勢報告（令和4年1月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

需要期に合わせた出荷のために ～ユリ花蕾肥大調査～



JA高知県安芸地区花き球根部会（7戸）では、オリエンタル系のユリを中心に計画的な作付け、栽培を行っています。

農業改良普及課は、ねらった時期に確実に出荷できるよう、年末出荷の主要な3品種について、4ほ場で、花蕾の肥大調査・環境測定をJAと協力して実施しました。温度環境と各品種の花蕾発達スケジュールを把握することで、今後の作付け計画・栽培管理に活かし、単価の高い需要期に確実に出荷できることを目指しています。

農業改良普及課は、今後も有利販売につながるよう支援をしています。

農業経営とカイゼンについて学ぼう！ ～第7回農業基礎研修講座～

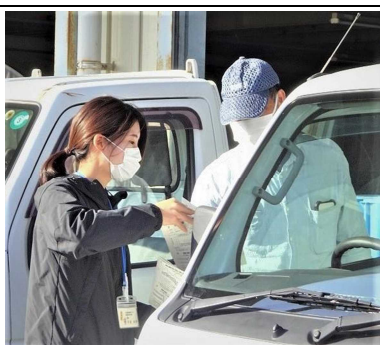


農業改良普及課では、就農5年目までの新規就農者等を対象に、7月から2月まで毎月1回の農業基礎研修講座を開催しています。

1月9日の「農業経営」、「カイゼン」の講義には、11人が出席しました。出席者からは「難しい内容もあったが、内容を復習し今後の営農に生かしたい。」、「カイゼンの視点を取り入れ、作業負担の軽減につなげたい。」といった声がありました。

農業改良普及課は、今後も新規就農者の早期経営安定に向けて取り組みます。

営農相談会を開催しました ～安芸出荷場ナス部会～



1月17日、安芸集出荷場において営農相談会を行い、ナス農家100人に対して資料を配布し、厳寒期のかん水管理や温湿度管理、病害虫対策等について周知しました。

農家からは、かん水量を増やすタイミングや燃油の高騰を背景に夜間の温度管理についての質問がありました。また、病害の発生は少なく生育は順調であるが、価格が低迷しており、経営的には厳しさを感じているなどの声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、季節に応じた栽培管理情報を提供することで、安定生産を支援します。

新しい品種・技術を視察～穴内支部園芸部園芸研究会ナス部会現地検討会～



1月17日、穴内支部園芸部園芸研究会が安芸のナス生産者のほ場で現地検討会を開催し、生産者16人が参加しました。現地検討は3ヶ所で行い、それぞれのほ場で「単為結果品種」、「つるおろし栽培」、「常温煙霧機」といった新しい品種、技術を確認し、農業改良普及課は、常温煙霧の試験について説明を行いました。参加者からは、「来年は単為結果やってみよう」といった声や「常温煙霧機で農薬散布が楽になったらいいね」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も新しい栽培技術の導入による、栽培技術の向上に向けて支援します。

「生産者カルテ」でナス栽培の指導！



1月20日、農業改良普及課室戸支所は、室戸市の芸東ナス部会のIoPプロジェクト協力農家でもある新規就農者1人を対象に個別指導を行いました。

農業改良普及課室戸支所では、今年度から環境データを収集・分析し、グラフ化した「生産者カルテ」を利用した栽培管理の改善に取り組んでいます。農家から「なぜこの時間は二酸化炭素濃度が下がっているのか」、「内張りはいつ上げるのが一番良い？」などの質問に対して、「生産者カルテ」によって「見える化」された管理を篤農家データと比較することで、具体的な改善策を提案しました。

農業改良普及課室戸支所は、今後もIoPの取り組みを推進し、生産者の所得向上に向けて支援します。

イチジクの白塗り



農業改良普及課は、複合経営拠点を通じて、奈半利町の特産物であるイチジクの生産振興を支援しています。

イチジクは寒さに弱く、また前年度は植えたばかりの幼木だったこともあり、昨年は寒波による凍害の被害が多く出ました。そこで今年度は凍霜害対策として、白塗剤を樹体に塗布しました。前年度予想以上の収量があり、なり疲れが懸念されることから、冬を暖かくして乗り切って、十分英気を養うことで、次作での活躍に期待しています。

今後、寒期の抜けを見計らって、剪定作業を慎重に行っていきます。農業改良普及課は、今後もきめ細かい管理指導で安定生産を支援します。